

# ダイヤモンドリングに大歓声

41 商 岡川 榮 司

皆既日食に初めて出会ったのは 2012 年 7 月 11 日、モアイ像で知られるイースター島の小高い牧場で、その時の感激を再び 2015 年 11 月 13 日豪州ケアンズの洋上で味わい、今回は三度目である。荘厳な天体现象が始まると犬や家畜は驚き鳴き声を上げ、全身が小刻みに震える様は、怪奇現象と恐れられて日食の予言者が神の使いとして崇められたことも理解できる。数年に一度の天体ショー、天文学者やマニアが最も美しい皆既状態の数分間のためにかかなりの費用をかけて世界中から集結するのである。



2016 年 3 月 1 日シンガポールから世界一周中のヴォレンダム号に乗船、インドネシアのジャワ島周囲の観光を続けながらインドネシア領カリマンタン島とスラウエシ島間のコバルトブルーの海上で人類には創造不可能な皆既日食ショーを観る船旅である。

る。

3 月 9 日 6 時、既に甲板に三脚が林立している。暗い空に雲がありおまけに早朝のスコールあり。今までの二回は共に、直前に晴れ間が出て観測できた経験あり、今回はどうかとコーヒーを飲みながら待つ。暗闇が徐々に明るくなり雨上がりの虹も出る。風が出てきて次第に雲が流れる。

7 時 28 分太陽が雲間で欠け始める。太陽が次第に大きく欠けながら昇り雲が飛んで晴れ間が広まる。8 時 38 分 20 秒、太陽の下部が一瞬ダイヤモンドのように大きく光って皆既状態に



突入、辺りは暗くなったが真っ黒ではない、暗い太陽と夜明け前のような色をした天空。肉眼でも太陽の周囲のコロナ光が観える。金星が見える。荘厳な黒い太陽をファインダーで捉え数十秒毎にシャッターを押す。顔を上げては肉眼で天空を確認する動作を繰り返す。皆既の 3 分間はフィルターメガ

ネがいない。と、暗闇から一條の閃光が走り瞬時に光が広まり忽然とダイヤモンドリングが出現する。恍惚と見とれ声ともつかないうめき声があたりから聞こえ、眩しさにメガネをかける。直後、周囲が明るくなりうっすらと見え始める。8時41分01秒ダイヤモンドショーは終り、至るところで大歓声上がり、やがて甲板上は拍手喝采の嵐となる。太陽は徐々に静かに眩しく目のやり場のない熱い裸身を見せて強く輝き出す。観測に三回連続成功である。



ダイヤモンドリングは月に完全に覆われる皆既状態の寸前に小さく皆既が終わる直後に大きく表れる。この瞬時の美しさは自然現象の中で最も素晴らしい光景と思う。世界で数年に一度、しかも晴れた空で数分間観られる皆既日食ショーにお目にかかる生涯忘れられない思い出になると断言できる。

日本では皆既日食は当分ないが、2017.8.21に真夏のアメリカ中部で観測できる。そのあとは2019.7.2に真冬の南ア、チリ、アルゼンチン南部で観られます。